

第3回「家庭教育応援隊養成講座」

上北地区:8月 7日(水) 三沢市キッズセンターそらいえ 受講者 9名
下北地区:8月17日(土) むつ市下北文化会館 受講者19名

今回は、共通テーマ「気になる子どもの理解と対応」と題し、講師には上北地区は松浦氏、下北地区は栗林氏をお招きし、それぞれの専門的視点から御講義いただき、支援者として配慮しなければならない事柄等を学びました。午後の演習では、家庭教育支援のためのテキスト「あおり親楽プログラムの活用」の進行役を実践していただきました。

午前：講義「気になる子どもの理解と対応」

上北地区研修 講師 青森中央短期大学幼児保育学科 准教授 まつうら 松浦 じゅん 淳 氏

講義要旨

- 子どもを理解するために、行動に目を向けるだけでなく、その背景にも目を向けることが必要。
- 二次障がい食い止めるために、「本人主体の余暇スキルを獲得させること」、「わかってもらえる理解者をつくること」が効果的に働く。
- これからの社会においては、多様さを前提に、その人なりの良さを味わい、関わりに生かすことが大事である。



下北地区研修 講師 弘前大学大学院医学研究科附属 くりばやし 栗林 みちと 理人 氏
子どものこころの発達研究センター 特任准教授

講義要旨

- 子どもの成長・発達は、遺伝子と環境の相互作用であり、遺伝子自体が環境によって、後天的に制御される。
- 「生きづらさ」軽減のために、周囲の理解や環境調整が必要。3ヶ月してみて効果が無い指導法ならば、他の指導を試してみよう。
- 発達障がいとされる子どもも、適切な理解、対応によって成長する。子育て支援、子どもの自立支援である療育の環境をいかに整えるのかが大切であり、また見守る大人の存在が必要である。



学術的立場から、医学的立場から、貴重なお話をいただきました。一昔前では「落ち着きのない子」「お話を聞けない子」とされていた子の中には、生まれもつての特性として、そのように行動する子もいます。適切な支援は、その子ども達の健やかな成長を促すとともに、周りの子ども達にも生活のしやすさ、勉強の分かりやすさにつながることを学びました。



写真

【左】上北会場の様子から。具体的支援方法の紹介に、感嘆の声があがりました。

【右】下北会場の様子から。実際の支援場面についてのお話もありました。

(受講者の感想)

〈上北〉具体的にお話しくださって分かりやすかったです。本人の気持ち、親の思い、支援者としての考え、それぞれの立場で違うと思いますが、一番困っているのは親でもなければ支援者でもなく、本人である！そのことを理解したいと思っているのですが、なかなか難しいです。私は親としての立場もありますが、支援者としても頑張っていきたいと思っています。

〈下北〉家族のあり方の大切さについて、考えさせられました。支える家族の居ない方（子どもも大人も）が日々増えている今日こそ、少しお節介なくらいの関わりがあっても良いのかな、と思いました。

午後：演習「あおり親楽プログラムⅡ」

前回の演習を踏まえ、今回は受講者に「あおり親楽プログラム」進行役を実践していただきました。受講者全員に進行役を実践していただくため、3人1組でグループを作り、さしずめ2人を相手に研修会の実施、といったところです。

人数は少ないとはいえ、その思いを汲み取りながら意見交流を進めていく様は、まさに研修会そのもの。プログラムがもつ、自分の課題に気づいたり、親としての役割やあり方について考えたり、整理するというエッセンスを味わいながら、皆さん大変上手に進行していってました。



写真

【左上】 学びの中にも、楽しさを感じながら進行している様子。

【右上】 明日からでも「あおり家庭教育アドバイザー」デビューできそうな雰囲気。

【左下】 意見を聞きながら板書するのは大変ですが、見事なまとめぶりです。

【右下】

「あるよね～、こんな子育て場面。」

「うちも、大変だったわ。」

「俺のところではそうでもなかったな。」

「男親は気づかないのよ。」

「はあ・・・。」



(受講者の感想)

〈上北〉 進行役を体験させていただいて、みなさんの意見を聞き、みなさんが主役で、いろんな視点や経験から、みなさんの体験談を聞け、とても勉強になりました。ありがとうございます。（もっと進行をスムーズに進められるよう、そしてたくさんの意見を引き出せるよう、これからもっとスキルをあげられるよう頑張ります。）

〈下北〉 プログラムをやってみて、手順を踏んで行うのはできるかも知れませんが、その中に自分の心を落とし込んでいくのは並大抵なことではないと思います。事前の準備、学習が大事になるのを実感しました。

今回で、「あおり親楽プログラム」についての学びは、一旦終了し、次回は実際に「子育てサロン」を運営するためのポイント等を学び、実践するための計画づくりをします。